



笑顔の ひろば

vol. **25**

春号

発行

2014年5月10日

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hosp.jp>

新MRI装置が稼働しました より質の高い検査、 正確な診断が可能に！

川崎協同病院に新しいMRI（核磁気共鳴画像法）
機器が導入され、3月から稼働開始されました。CT
とは違い放射線を使わず診断ができるMRIは、これ
までも活用されてきましたが、新機種（Optima
MR360 Advance 1.5T = GEヘルスケア・ジャ
パン）は今までに比べ、磁場の強さ（解像度に反映）
が1.5テスラとこれまでの3倍となり、解像度は3
倍にあがりました。また「撮影時間が長い」「音がう
るさい」「閉所恐怖症の人には不向き」などMRI自体
の難点も、技術や設計改善によって、撮影時間は短縮
され、清音化機能がつき、圧迫感も少なくなりました。
検査台は高さ49センチまで下げられるため、高齢の
患者さんでも容易に検査台へ移動できるなど患者さん
への負担が軽くなりました。

診断の面でも撮影できる種類が増え、撮影範囲も広
がり、各診療分野において活用が広がっています。



新機種は検査時間も短く患者さんの負担も減りました。

— 各診療科の医師の声 —

内科：安西光洋主任部長（副院長）

従来評価が困難だった肝・胆・脾疾
患ばかりでなく、動脈硬化疾患の描
出にも造影剤を使用することなく、鮮
明な画像を得ることができるので、患
者さんへの負担も少なくてすみます。



整形外科：戸口淳部長



脊椎領域は新しいMRIで神経の状
態が詳細にわかるようになりました。
特に腰椎では今まで矢状面（側面像）
と横断面の2方向が主体でしたが、
新MRIでは冠状面（正面像）での
描出が可能となりました。そのため
神経根の描出が良好となり、より詳
細な診断が可能になりました。

外科：和田浄史部長

乳がんの病巣の広がりや、造影剤を
使用することなく詳しく知ることが
できます。また胆管やすい臓など内
視鏡で観察しにくい部分も立体的に
描くことができ、安全な手術につ
な갑니다。



産婦人科：李龍姫科長



婦人科の病気の診断、子宮筋腫や卵
巣嚢腫の診断などによく使います。
新しいMRIは診断の向上のために、
産婦人科での活用は拡大します。

…と各診療科で新しいMRIの活用に積極的に取り組
んでいます。

検査・診断範囲も拡大し、患者さんの負担も軽減さ
れます。最適な診断治療ができ、質の高い医療を、地
域や、組合員さんに還元していきたいと思っています。

看護部長 八木 美智子

NEW FACE

新しい仲間を迎え、さらに地域の健康づくりに貢献します！

この春、川崎協同病院は32人（法人全体では38人）の新入職員を迎えました。オリエンテーションも終わり新人たちは配属の各職場に赴任していきました。入職した6人から代表して話を聞いてきました。
（医師事務室 木下 博志、看護学生担当事務 平舘 浩美）



左から國枝裕介・小倉類・吉原四方

國枝 裕介（日本医科大学卒）

始めまして國枝裕介と申します。日本医科大学卒で2年目の齊木先生の後輩に当たります。地域密着型の病院で研修がしたく、また川崎は地元であるため川崎協同病院を選びました。野球・サッカーなどスポーツ全般が大好きです。人見知りですが気軽に声をかけてください。よろしくお願い致します。

石川 貴和子

3階急性期病棟に配属になった石川です。私は人の役に立つ仕事をしたかったことや、看護師が足りないと思ったことから看護師を目指すようになりました。3階病棟は入退院が多く、患者さんの疾患の種類も多いので勉強が大変です。しかし病棟の皆さんが良くしてくれるので楽しく過ごしています。まだまだ未熟ですが、1日でも早く業務に慣れて、患者さんが笑顔になれるようにしっかりと学んでいきたいです。

白鳥 裕子

4月1日に看護師として入職した白鳥です。入職してから平日は自炊頑張っています！ご飯を食べながら小さい頃大好きだったセーラームーンを見返すのが最近の楽しみです。5階病棟に配属され、仕事は大変ですが、先輩方がやさしく教えてくださるので、充実した毎日を過ごしています。

小倉 類（高知大学卒）

始めまして。今年4月から研修医として働かせてもらっています。大学時代はテニスをしていました。まだまだひよっこですが、立派な鶏になれるよう頑張るのでよろしくお願い致します。

吉原 四方（東海大学卒）

私が医師を目指した理由は、小さい頃から医師であった父の後ろ姿を見てきたので自然と自分も医師を目指しました。今は、無事医師になれてほっとしています。支えてくれた家族に何らかの形で恩返ししていきたいです。川崎協同病院を選んだ理由は、地域に根差した医療に興味があり、中小病院でコツコツやりたいという思いもあったからです。川崎協同病院の志を受け継いでいけるよう頑張りたいと思います。



左から石川貴和子・白鳥裕子・島田瑞希

島田 瑞希

4月1日に看護師として入職した島田瑞希です。就職してから自炊をするようになって、今はお弁当も夕飯も作るようにしています！同期の皆と週末食事に行くのが楽しみになっています。内科慢性期病棟に配属されて覚えることが多いけど、仲間達に支えてもらいながら頑張ろうと思います。

地域一体となって緩和ケアを『第9回川崎南部緩和ケアフォーラム』から

トピックス

2月20日『第9回川崎南部緩和ケアフォーラム』が開催されました。このフォーラムは、緩和ケアについての知識を深め、地域における関係者間のネットワーク作りを目的とした学習会で、5年前に川崎市立川崎病院、川崎幸病院、川崎社会保険病院（当時）と川崎協同病院の4病院の連携ではじまりました。

今回は川崎協同病院外科部長の和田浄史医師と緩和ケア認定看護師の鈴木奈美看護師長が当番世話人を担当しました。

フォーラム発足当初は、病院間の連携が主目的でしたが、回を重ねるうちに医療だけではなく、介護福祉領域の様々な職種からの参加が増え、今回は全体で120人が参加しました。和田医師によると、「地域で緩和ケアを考えた時、医療だけで完結することはありません。フォーラムに多職種



進行を努める和田医師と鈴木師長。和やかな雰囲気です。

の方が参加することで、この地域に素晴らしい人たちが働いていることを改めて認識できました。フォーラムをきっかけに顔の見える関係づくりをすることで、川崎協同病院に留まらず、地域で色々な方の力を借りながら患者さんの幸福を追求したいと思ってこのフォーラムを続けています」と話しています。

緩和ケアチームで終末期の患者さんを支える

和田医師は緩和ケアは“終末期”に限った事ではないと前置きした上で、「うちのような地域の医療機関は“治す”、“支える”、“見送る”というそれぞれの医療が必要です。治らない患者さんでも最期まで幸福を追求しながら、支え、見送っていくことが大切だと思っています。当院には緩和ケア病棟はなく、“緩和ケアチーム”を作っていますが、これは主治医や担当看護師が最期まで診（看）続けるために、緩和ケアチームが主治医をバックアップする仕組みです。プライマリケアの大切な概念に“継続性”と“責任性”があり、それを具体化した仕組みだと考えています」と説明します。

地域の様々な主体が連携し、患者さんの最期の時をお互い顔の見える関係で支えていくことで、川崎南部地域が地域ごと緩和ケア病棟のようになっていけば素晴らしいと私も思いました。

医事課 今藤 直之

私が担当します！

連携機関のスタッフと協力して、患者様やご家族の不安の解消へ。

こんにちは。4月16日から川崎協同病院地域連携室看護師長に着任した鍵屋真理です。私は静岡県出身の為か（こんな事を言うと静岡県民に怒られそうですが…）のんびりした性格です。

看護学校の時に川崎協同病院で5日間体験実習させて頂きました。看護師の患者様との向き合い方や関わり方、医師と看護師の共に考えている姿などに惚れ、1992年に同級生と共に川崎協同病院に入職し病棟や外来を経験しました。

2012年4月から2014年4月までの2年間、協同ふじさきクリニックの在宅支援室、整形外科・皮膚科外来担当看護師長として働いてきました。それまでは病院の中でしか働いた事がなかったので、往診で地域に出て、患者様の家に伺い、患者様だけではなく家族との関



川崎協同病院 地域連携室
看護師長 鍵屋 真理

わり、在宅で看取る事や介護する家族の苦勞、ケアマネージャーをはじめ在宅のケアスタッフ（ヘルパー・訪問看護師 etc…）との連携の重要性など、「在宅で過ごすとはどういう事か？」という多くの事を感じて考えさせられました。

この経験を活かして、地域との繋がりを大切に、患者様だけでなくご家族が少しでも安心して退院出来るような援助が出来るよう頑張ろうと思っています。

不慣れな部分は多々ありますが、地域の連携機関と協力しながら少しでも力になれる様に頑張りますのでよろしくお願い致します。



“第2の自宅”をめざして～

小規模多機能ホーム浅田

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。

第5回は「小規模多機能ホーム浅田」です。

(取材：地域連携室 小森千絵、高橋靖明)

小規模多機能ホーム浅田（以下“浅田”）は今年1月4日、産業道路を目の前にしたバスの往來のある住宅街の一角にオープンしたばかりです。3階建てビルの1、2階部分を使用して、1階は通いサービスとして、2階は宿泊サービスとして地域の高齢者に利用されています。

訪れると、木の香りが心地よいホームで、2階の居室スペースはピンクを基調にした内装を窓からの光が明るく照らし、ベッドカバーは個々に種類も異なるなど、細やかな配慮がうかがえます。

“浅田”を運営するのは医療法人・啓和会。診療所から始まり、現在では介護保険にかかわるさまざまな事業と介護予防事業も展開しています。浅田の他にも2ヶ所の小規模多機能ホームがあります。

●少人数だからこそ自由に過ごす

小規模多機能ホームとは、在宅生活をしている高齢者が、通いを中心に、訪問介護をうけたり、宿泊もできるという3つのサービスを1ヶ所でまかなえる施設です。365日24時間、その人の生活スタイルに合わせたトータルなプランが立てられます。



ご自宅のような雰囲気についついこたつでうたた寝も

“浅田”は25人定員で、現在は17人が登録、少しずつ利用者さんは増えています。自宅の延長のサービス、つまり第2の自宅をめざし、少人数だからこそアットホームに自由に過ごせるような時間づくりに力を入れています。



地域に根ざした第2の自宅

1階では通常のデイサービスとは違い、利用者さんは集団で活動するのではなく、個々に会話や趣味を楽しんだり、自由にこたつで横になって過ごしたりしています。動物と触れ合う企画があったり、いつも笑顔で楽しい雰囲気ようです。オープンして3ヵ月、これからいろいろな企画を増やしていきたいと、施設長の宮地洋之さんは話しています。

スタッフも利用者さんと親密に関わることができて、やりがいが高まっているようです。

●協同病院へひとこと

緊急時の対応や医療とよりよい連携関係ができればよいですね。気軽に相談や情報の共有ができる関係を作りましょう。

●おじゃまして…

決まった時間に決まったことをするのではなく、自由に過ごせること、通いでも宿泊でも同じ施設でサービスが受けられることは利用者さんにとって大きな安心につながります。利用者さんがこたつで横になっている姿が印象的で、「第2の自宅」そのものを感じました。

医療法人 啓和会 小規模多機能ホーム浅田

管理者：宮地 洋之

川崎区浅田 2-17-8 1F・2F 044-201-6066

広報係 の ひとりごと

4月1日から消費税が増税されました。

3月には増税前の駆け込み需要のことが連日報道され、店舗では増税前のセールでにぎわっていました。私も趣味の音楽CDをまとめて買っておこうと考えましたが、がんばって1万円分買ったところで増税分3%の金額はたかだか300円。節税効果は金額にしてみればわずかなものです…やめておきました。増税と同時に、70歳から74歳の高齢者の医療費窓口負担額は1割から2割になり、介護保険料の引き上げと年金支給額の引き下げなどもおこなわれました。政府・与党が言う「消費税増税で社会保障充実」となっていないことは明らかです。

今後10%への増税も予定されています。社会保障と自分の趣味を守り充実させるために、これからも消費税増税に反対していくぞ！



医師事務室 加川 竜